

『一人の笑顔のために』

『いのちをいただく』

絵本「いのちをいただく みいちゃんがお肉になる日」何度読んでも、心に響きます。12月3日（金）、この絵本の原案者である元食肉解体作業員の坂本義喜さんに『命の講話』と題して講演をしていただきました。講題は、「いのちと仕事～いのちをいただく～」です。絵本の内容（坂本さんが実際に体験されたこと）を具体的に詳しくお話していただきました。

ある日、一台のトラックが、食肉センターの門をくぐってやってきました。やってきたのは、おじいちゃんと孫の10歳くらいの女の子、その女の子がうしに話しかけている声が聞こえてきます。

「みいちゃん、ごめんねえ。みいちゃんが肉にならんとお正月がこんて、じいちゃんのいわすけん。みいちゃんば売らんとみんながくらせんけん。ごめんねえ。みんちゃん、ごめんねえ。」

坂本さんは、見なければよかったと思います。そしてまた、「この仕事はやめよう。もうできん。」とも思われました。坂本さんはその夜、みいちゃんと女の子のこと、そして明日は仕事を休もうと思っていることを息子のしのぶくんに話されます。

しのぶくんは、坂本さんに言います。

「おとうさん、やっぱり、おとうさんがしてやったほうがよかよ。心のなか人がしたら、牛が苦しむけん。おとうさんがしてやんなっせ。」

みいちゃんのいのちを解く、そのときがきました。坂本さんが、「じっとしとけよ、みいちゃん、じっとしとけよ」というと、みいちゃんは、ちょっと動きませんでした。そのとき、みいちゃんの大きな目から、涙がこぼれおちてきました。坂本さんは、牛が泣くのをはじめてみました。

後日、おじいちゃんが食肉センターにやってきて、しみじみと言われます。

「坂本さん、ありがとうございます。昨日、あの肉ば少しもらってかえて、みんなで食べました。孫は泣いて食べませんでした。『みいちゃんのおかげで、みんながくらせるとぞ。食べてやれ。みいちゃんに、ありがとうといって食べてやらな、みいちゃんがかわいそかろ？ 食べてやんなっせ』っていうたら、孫は泣きながら『みいちゃん、いただきます』『おいしかあ、おいしかあ』ていうて、たべました。ありがとうございました。」

坂本さんの思い、しのぶくんの思い、おじいちゃんの思い、女の子の思い、そしてみいちゃんの思い、それぞれの思いが心に響きます。そして、私たちは多くの命をいただいて生きていることを改めて考える機会となりました。

